CUBAPON ニュース

日本キューバ連帯委員会

http://ifcc1985.com/cubapon/　郵便振込口座　00170-2-195919

No.55
2018 年
2 月

東京都新宿区山吹町 333 辻ビル 405
IFCC 気付
TEL : 03-3268-4387
FAX : 03-3268-6079
E-mail　jvccpf@rmail.plala.or.jp

フィデル・カストロが革命を指揮した革命司令本部

肌で感じたキューバの歴史

2017キューバ友好訪問団　報告

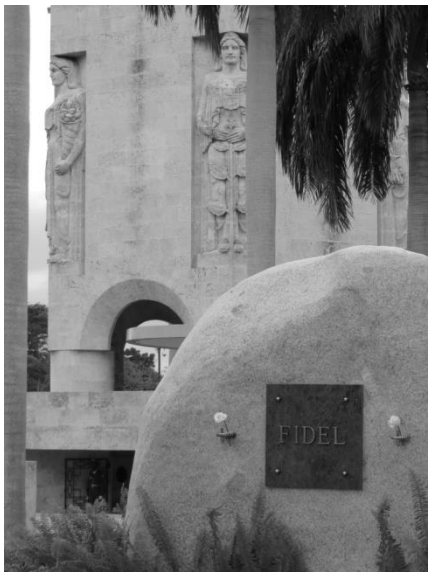
第 20 回を重ねたキューバ平和友好訪問団は、10 人の団員で 2017 年 11 月 22 日から 29 日までの日程でキューバの各地を訪問しました。

2017 年はチェ・ゲバラ没後 50 年、フィデル・カストロ没後 1 年という年であり、2 人の革命家の追悼の意味を込め、革命戦が戦われたシエラ・マエストラ司令部（コマンダンシア）をはじめ歴史的な場所を訪れ、併せてキューバの現状を見聞する貴重な機会となりました。

フィデルを偲び、革命戦の足跡を辿る

訪問団は 22 日深夜ハバナに到着し、翌 23 日、空路サンティアゴ・デ・クーバに向かいました。この日は昼食後、ビランに向かいフィデルの生家を訪ねる予定でしたが、飛行機が大幅に遅れたため、ビラン行きは断念し、サンタ・イフィヘニアへフィデルの墓参に向かいました。

2016 年 11 月 25 日逝去したフィデルのお墓は、彼が尊敬してやまなかったホセ・マルティの廟に寄り添うように建っていました。「フィデル」と刻まれたプレートが付けられた自然石です。すべての国民が親しみを込めて呼んだ名前、「フィデル」。それ以外、何の説明も称賛も必要ない、ということでしょう。



ホセ・マルティ廟に寄り添うように
フィデルの墓石が建つ

ガイドのハビエルさんが用意してくれた白い花を一輪ずつ墓前に捧げました。

既に夕暮れどきで閉館の時間が迫る中、廟を守る衛兵たちの手で国旗がポールから降ろされ、その日最後の行進を見届けて、サンタ・イフィヘニア墓苑を後にしました。

ぬかるみと格闘の末、やっと到着！→

その日のうちにシエラ・マエストラの麓のホテル「バルコン・デ・ラ・シエラ」に移動し、翌朝いよいよコマンダンシアへのトレッキングです。2 台の 4WD 車に分乗して登山口へ。そこから徒歩で革命司令本部「コマンダンシア」をめざします。

降り続いた雨でぬかるんだ急斜面と格闘すること 3 時間。ようやく司令部の見張り小屋に到達しました。そこから先にはチェ・ゲバラが治療に当たったという病院棟や、現在、資料展示室となっている当時の小屋、斃れた同志の墓などがあり、最深部にフィデルが指揮を執った革命司令本部がありました。

下山後、一路サンティアゴ・デ・クーバへ。団員が持参してくれた大量の T シャツを届けるため、ICAP サンティアゴ支部に急ぎ向かいました。すっかり暗くなってから到着した私たちをフアン・カルロス支部長とマリアさんが、淹れたてのコーヒーを用意して待っていてくれて、友好のぬくもりを感じた訪問となりました。

CUBAPON の活動にご協力いただきありがとうございます。2017 度会費（2017・6・1～2018・5・31）会費：3000円にご協力お願いします。
振込は郵便振込口座 00170-2-195919　口座名：日本キューバ連帯委員会。

革命博物館にて

翌日、サンティアゴ・デ・クーバから空路ハバナに戻り、午前中はヘミングウェイの邸宅、彼の代表作「老人と海」の舞台となった漁師町コヒマルと、文豪ゆかりの地を訪ね、午後は革命博物館を見学しました。

翌日はバスでサンタクララまで、ほぼ半日がかりのバスの旅です。この時間を利用してガイドのハビエルさんにさまざまな質問が出されました。彼は一問一答で真摯に答え、そして「日本のピースボートのアテンドも経験しているが、CUBAPON のグループは特にすばらしい。キューバの現実を知ることにとても熱心だ」とたいへん感激していました。キューバの現状と併せて革命政権の方針、課題も含め的確な解説をしてくれたハビエルさんもまたすばらしいガイドでした。

サンタクララではゲバラ廟、チェ・ゲバラ博物館含め、チェゆかりの地を訪ねました。特にゲバラ廟は、映画「エルネスト」で日本でも知られるようになった、ボリビアでチェとともに最後まで戦った日系人フレディ・マエムラにも思いを馳せながらの見学となりました。

チェの像が建つゲバラ廟にて→

実質最終日は午前中、諸国人民友好協会（ICAP）とキューバ労働組合中央組織（CTC）を表敬訪問しました。

ICAP では 5 人の英雄の一人でもあるフェルンド・ゴンサレス総裁が私たちを出迎え、友好運動の重要性、メディア攻撃に対抗するため「キューバの現状を知り、日本に持ち帰り、広めること」が大切で、そのために出来るだけ多くキューバに来てほしいとの要望、さらには CUBAPON の活動を高く評価する発言がありました。続いて訪問団のメンバーからアメリカのトランプ政権のキューバ攻撃やキューバ各地を訪ねた感想など活発な発言があり、より深い意見交換が行われました。

ICAP にて →

CTC にて ←

続いて訪ねた CTC 本部では、国際局ファビアン アジア・オセアニア部長と会談しました。キューバにおいても労働組合の組織率の課題があることなどが語られ、団員からキューバの労働者の実態などについて質問が出されました。

午後は革命広場を散策しました。一昨年 11 月、フィデルの国葬が執り行われ、「フィデルはここにいる」、「私がフィデルだ」と民衆が声を合わせた場所です。

「強く、美しく生き切ったフィデルとチェに出会う旅」の締めくくりにふさわしい場所でした。

ハリケーン「イルマ」被害支援カンパを手渡しました

ICAP 訪問の際、皆さんからお寄せいただきましたハリケーン「イルマ」被害支援カンパ 15 万円を村山団長からフェルナンド総裁に直接手渡しました。総裁からは感謝のことばと、後日、署名入りの感謝状を頂きました。

訳文を添えて掲載いたします。

INSTITUTO CUBANO DE AMISTAD CON LOS PUEBLOS
Calle 17 No. 301, Vedado TH: 7830-2413 Email: presidencia@icap.cu

La Habana, 6 de diciembre de 2017.
"Año 59 de la Revolución"

A: Comité de Solidaridad con Cuba, CUBAPON

Estimados amigos de CUBAPON:

En nombre del Instituto Cubano de Amistad con los Pueblos les hacemos llegar nuestro agradecimiento por el gesto noble y solidario de su organización de entregar un donativo con el monto de 150 000 yenes para la recuperación de nuestro país de los daños causados por el paso del huracán Irma, el pasado mes de septiembre.

Valoramos considerablemente su apoyo a nuestra Revolución y la divulgación, luego de cada uno de sus viajes, de la realidad cubana, así como las afectaciones causadas al pueblo de Cuba como consecuencia del bloqueo económico, financiero y comercial.

Gracias por su amistad y su contribución solidaria.

Con el testimonio de mi más alta estima,

Fernando González Llort
Presidente

ICAP 総裁からの感謝状（上）と訳文（右）

キューバ諸国人民友好協会

2017 年 12 月 6 日
「革命 59 年」の年

CUBAPON の友人の皆さん：

去る 9 月のハリケーン「イルマ」によって引き起こされた被害からの復旧のため、貴組織から高貴かつ連帯の心のこもった支援金 15 万円を戴きましたことに、キューバ諸国人民友好協会を代表して感謝の意をお伝えします。
私たちの革命に対する皆さんの支援と、訪問後、キューバ人民に多大な被害を与えている経済封鎖のもとでのキューバの現実を広く伝える活動に対し深く敬意を表します。
皆さんの友情と支援金に御礼申し上げます。
心からの感謝の気持ちをこめて

総裁
フェルナンド・ゴンサレス・ジョルト

ご協力ありがとうございました

近日発刊！

経済封鎖下を生きる カリブの社会主義XIX

2018年版

頒価：800円（送料込）

《内容》

チェ・ゲバラ没後50年、フィデル・カストロ没後1年にキューバの「今」をレポート

第２０回訪問団報告

- トランプ米国政権と対峙する ――キューバ見聞記録
  - 諸国人民友好協会、キューバ労組組合中央組織表敬訪問記
  - 革命根拠地“シエラ・マエストラ”登山記 など
- 資料

申込先:CUBAPON事務局まで

TROPIC-TOUR

アイエフシー

はCUBAPON関連の手配旅行社です

キューバをあなたに届けます

- ◆ アイエフシーはIFCC国際友好文化センターの関連旅行社です。“人と人との出会い”を通した友好・交流プログラムを演出します。
- ◆ アイエフシーは文化、政治、福祉、環境分野の視察、研修、調査のプログラムをお手伝いします。
- ◆ アイエフシーはキューバなど中南米、ベトナム・中国などアジア、ドイツなど西欧、デンマークなど北欧のプランニングを行っております。

東京都知事登録旅行業第3-3757号

〒162-0801

東京都新宿区山吹町333番地　辻ビル405

TEL 03-3268-6014　FAX 03-3268-6079

キューバから「もうひとつの世界」を見る旅

第２１回訪問団◆ご案内

第21回キューバ友好訪問団は、革命成功59年目のキューバの医療、教育の現状を見聞することと、ベネズエラ、ニカラグアなど中南米情勢についての意見交換を通して「もう一つの世界」を知ることを目的に、2018年秋出発を予定しています。

アメリカと関係が深く、「アメリカから見た中南米」のニュースしか入って来ない日本にあっては、実際に行って、見て、聞くことでしか感じられないものがあります。

第２１回訪問団で「もうひとつの世界」を一緒に感じてみませんか。

実施日:2018年11月22日～29日(8日間)

※ プログラム詳細、参加費用などは６月下旬決定する予定です。

※ ご希望の方に資料をご案内しますのでCUBAPON事務局にお申し出ください。

セニョリータのキューバ★ウォッチ

「CUBADEBATE」より

「CUBADEBATE」２月１日付の記事によると、アメリカ大使館前の**138本のポール**に久々にキューバ国旗が取り付けられたそうです（左の写真参照）。このポールは2006年、アメリカが当時利益代表部だったこの建物に設置した電光掲示板で反キューバ宣伝を行ったことに対抗して建てられたもので、国交回復して以降、旗は降ろされポールだけになっていました。

今回の国旗の設置はアメリカがインターネットを使ってまたぞろ反キューバ宣伝を始めたことに対する抗議の一環で、アメリカの行為を「国の主権を侵害するもの」として激しく非難しています。

キューバの主権侵害への反応は鋭いものがあります。それは、独立戦争と革命で血を流して戦い取った歴史があるからでしょう。

翻って日本。先ごろ**アベ首相が韓国の主権を侵害する発**言をして、文在寅大統領に不快感を与えてしまったという残念なニュースがありました。

他国の主権を侵すことに鈍感であることは、自国の主権が侵されることにも鈍感であることの裏返しと言えます。経済はともかく、独立した国としては日本よりキューバの方が格上と実感した一件でした。　（K.M）

今もって我々は自由、独立、主権を

12 月 21 日、第８会期人民権力全国議会（国会）第 10 回通常国会閉会式において、ラウル・カストロ国家評議会議長の演説が行われました。
この中でラウル・カストロ議長は、「イルマ」による被害状況や経済状況について述べるとともに、逆行した施策によりキューバ・アメリカの関係を悪化させているトランプ政権を批判しました。
また、自らの任期は来年 4 月 19 日に開かれる人民権力全国議会までとし、議長交代に言及しました。

諸君：

去る９月８日から 10 日にかけて我が国はハリケーン・イルマに襲われ、国内 12 州で程度の違いこそあれ、強風や豪雨、沿岸部の深刻な洪水を記録した。

国民を保護しようと懸命に活動した結果、180 万人余りを避難させることができたが、残念ながら 10 名の人命が失われた。被災家屋の数は 17 万 9000 棟余りに上り、各種インフラや医療施設、教育施設、農業、製糖産業、観光施設、通信設備が甚大な被害を受けた。初めて全国規模で電気の供給が中断した。

被害総額をまとめると 130 億 18 万 5000 キューバペソに上る。我が国民はこの災害及び復興作業を前に、組織立って団結し、秩序正しく連帯して立ち向かうことで改めて、その不屈と勝利の精神を示した。

この機会に改めて、世界中から届いた支援と数限りない連帯の表明に対し、キューバ国民を代表して深謝する。これらの支援は各地の国家元首・政府代表や政治団体、連帯運動、キューバの友人たちを通じて寄せられた。

この機会に、総選挙プロセスの第一段階が円滑に実施され、人民権力地方議員が選出されたことを申し述べる。国民の大多数がこの度も選挙権を行使し、第 1 回投票で 89.02%の投票率を達成した。

ハリケーン・イルマの影響で当初予定していた選挙日程を変更せざるを得ず、これにかんがみ本議会は本日、共和国憲法の規定により、地方議員及び国会議員の任期を延長することを決定した。新国会の成立は通例の２月 24 日ではなく、4 月 19 日となる。この日はプラヤ・ヒロンの戦勝記念日で、フィデルが宣言した社会主義による最初の偉大な勝利の日であった。

2017 年の国内総生産（GDP）は前年比 1.6%増を記録、好調を維持した。我々にとって満足のいく結果ではないが、財政上の制限や燃料不足に加え、3 年続いた深刻な干ばつの影響やハリケーン・イルマの甚大な被害によってさらに状況が悪化した中で達成したものである。

米国政府の対キューバ経済・貿易・金融封鎖の影響も無視できない。封鎖は 56 年以上にわたり継続しているだけでなく、新政権下で強化されている。

ささやかな経済成長をけん引したのは外国人旅行者数が新記録の 470 万人に達する観光産業のほか、主に運輸業、通信、農業、建設業などである。

財政が緊迫する中、すべてのキューバ人に無料で提供する社会サービスは保証された。

2018 年に関しては 2%の成長が見込まれる。我が国の外部ファイナンスからすると厳しいが、我々はキューバ経済の国際的信用度を漸次回復させるという確固とした目標を保持する。債権諸国に対しここに改めて、対外債務再編プロセスで成立した合意事項を遂行する意志を表明する。

サプライヤー（※仕入先・納品元）に対して、支払い期限を過ぎた通常の貿易決済を漸次履行していくよう努力を続ける。彼らの支援及び、我々が直面している一時的な困難への理解に感謝する。

同時に、未だ初期段階にとどまる外国投資の国内経済への参画を強化しなければならない。この方向性は 2017 年中に優れた結果を残したが、依然として不十分である。

二重通貨制度の解消は、経済モデル刷新を進める上で決定的なプロセスとなる。その理由は国の経済・社会活動の全分野に影響を及ぼすからである。この件に関しては時間がかかりすぎており、これ以上解決を先延ばしにできないことを私は認めざるを得ない。

2017 年、我々は、米国とキューバの二国間関係が深刻かつ非理性的に悪化したのを目の当たりにした。封鎖強化が示す関係後退は、断じて我が国のせいではない。攻撃的かつ不遜な発言の復活をはじめ、不当な措置を恣意的に実施することで両国民の絆と家族の絆を揺るがせ、両国民の自由と権利を損なうような原因を作ったのも我々ではない。

両国関係史上初めて、敬意と文明的共存を根幹とする新しいタイプの関係を目指すプロセスが双方の主権に基づく決定を経て開始されたが、米国政府が直近数ヵ月間に表明した決定によりこのプロセスは中断され、それに伴い新たな緊張が発生した。関係進展が逆行する中、米国は世界中から反対され、失敗した政策に回帰せんとする口実の捏造に走っている。

キューバ駐在の外交官やそのほかの外国人訪問客らが健康被害を訴えている事案に関して、キューバ政府は過去及び現在の関与を断固否定する。

キューバ及び米国による調査の結果、健康被害の原因や発生源に関する証拠はこれまで一切見つかっていないと報告されている。

維持しており、今後もそうあり続ける

両国間の既に限定的な経済・貿易・金融関係にさらに制限を加えたのは、キューバではない。米国市民のキューバへの渡航制限、キューバ市民の米国への渡航制限をそれぞれ強化したのもキューバではない。大使館運営を停止し、両国間の人の移動や交流、旅行などにマイナス効果をもたらしたのもキューバではない。

我々は可能な限り、平等及び我が国の独立と主権への尊重を基盤として過去数年間に構築された交流と協力の場を維持するよう引き続き努める。同時に米国政府と共通の関心事項における敬意ある対話と協力を引き続き行う。

キューバ革命は世紀をまたいで、米国歴代政権 11 代からの猛攻をしのいできた。今もって我々は自由、独立、主権を維持しており、今後もそうあり続ける。

米国、カナダ、欧州連合（EU）がベネズエラに対し、一方的に課した強圧的措置及び外国干渉に我々は反対する。これは情勢不安をあおる目的で同国内の平和と対話を脅かし、国民に経済的窮乏をもたらすものである。

周知のとおりアルゼンチン大統領を務めたクリスティーナ・フェルナンデス・デ・キルチネル上院議員、及びルイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルバ元ブラジル大統領は現在、政治的背景から寡頭支配層に訴追されている。同様に、両氏への我々の支持を表明する。

米国政府が一方的にエルサレムをイスラエルの首都と認定したことに対し、我々の深い憂慮と反対を表明する。これは国連諸決議と国際法の重大な違反である。

我々は中東紛争を「2 国家解決」に基づき広範、公平、かつ恒久的に解決できるよう、無条件の支援を重ねて表明する。この案はパレスチナに不可侵の自決権の行使を保証し、1967 年以前の国境線内で東エルサレムを首都とする独立国家の創設を保証するものである。

最後に、あらん限りの力と信念を込めてここに繰り返す。我が国はこれからも国際関係の全側面においてその原則を堅持し、人民の権利や平和、正義、人類の崇高な大義との連帯を擁護する。

諸君、締めくくりとして私は共産党第６回、第７回大会で述べた、政府要職の任期を２期 10 年までとする利点についてここで繰り返す。これに沿って、人民権力全国議会が来年４月 19 日に成立する時点で私の国家・政府指導者としての２期目、つまり最後の任期が終了し、キューバは新しい議長を迎えることになる。

それでは、諸君及び国民の皆に私から革命 60 周年となる新年の熱烈なお祝いを伝えて、結びの言葉としたい。

清聴に感謝する。

2017 年４月から８月までの５カ月間に及ぶ激しい反政府デモが続いたベネズエラ。100 名以上が命を落としたと言われている。

緊迫するベネズエラ情勢

■ アメリカによるベネズエラへの介入工作が激しさを増し、加えて昨年 10 月４日（現地時間）には米国下院で２年続けて「ニカラグア投資制限法」が満場一致可決された。この通称 NICA 法は「一般的には、ベネズエラの重要な地域の同盟国を害するための米国による攻撃と見られている」もの。地球の裏側ではトランプ米国政権によって人民の存亡と尊厳が蹂躙されている。ここには本当の危機がある。

■ トランプ米国政権の“ポチ”と化し、核兵器使用さえ使用容認するにいたった従順な安倍政権。その翼賛宣伝機関と化した日本の大手メデイアでは「北朝鮮危機」一色だが、「誰がどんな益を得ているか」をみれば演出された危機と本当の危機が浮き彫りになるであろう。

■ キューバで世界情勢を俯瞰すれば、今、何が起きようとしているか、起きているかが見て取れる。あらためてキューバ連帯の意味を考えたい。（K.A）

次ページにベネズエラ大使館提供の資料を紹介します

10分でわかる！

国際的なネガティブキャンペーンにさらされているベネズエラで「今何が起きているか」を約 10 分にまとめた動画（日本語字幕付）がベネズエラ大使館のＨＰで見られます。
キューバも常に問題視している「情報攻撃」の本質を含め、わかりやすく解説されています。

「ベネズエラで今何が起きているの？」

【ホーム】ベネズエラ大使館 http://venezuela.or.jp/

【コンテンツ】ニュース＆イベント http://venezuela.or.jp/news/

【コンテンツ】ムービー http://venezuela.or.jp/news/movie/

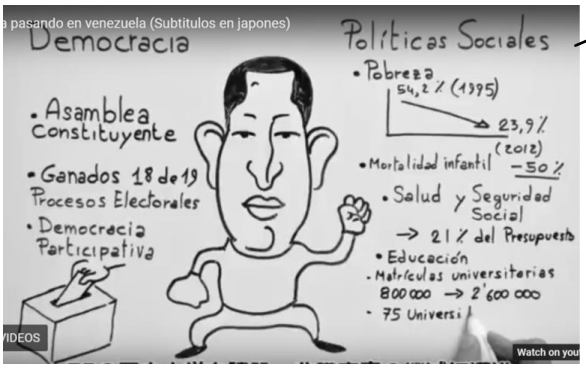
ベネズエラについてご存じだろうか。一般のメディアが伝える情報に左右されていないだろうか。考えてみてほしい。この言葉に心当たりはないだろうか。
「弾圧」、「独裁」、「監視」・・・
その裏には一体何があるのだろうか。

ねじれた事実を一つずつ見ていこう

ベネズエラは世界有数の石油埋蔵量を誇る。一方の米国は最大の石油消費国。100 バレルの缶を 60 個輸入する主要な輸入元のカギは中東が握っており、米国はこの地域でイラク戦争、シリア、パレスチナ占領、リビア干渉と、エネルギー戦争を繰り返している。その上、中東からの石油はホルムズ海峡を経てテキサスに着くまで 40 日～45 日。一方、ベネズエラは 4、5 日の距離。コストや所要時間を比べれば米国にとってベネズエラの重要性が理解できる。
その関心が、ベネズエラの歴史にどう影響を及ぼしただろうか。

1958 年、ベネズエラでは２つの大政党が政権を継続することを取り決めた「プント・フィホ協定」を結び、以降、民主主義をハイジャックしてきた。独裁的右派政権の下、国民の権利を踏みにじりながら米国への石油の安価供給が続いた。

1989 年２月、国民の怒りが爆発（カラカス暴動）。軍隊の発砲により１週間で 3000 人が死亡した。
この軍部の非人道的行為に怒りに燃えて立ち上がった一人の軍人がいた。その名はウーゴ・チャベス・フリアス。
1998 年、国民の圧倒的支持により大統領に就任した彼は社会制度を再建し、国民の積極的政治参加を促進した。



チャベス政権の実績

- 貧困率　54.2%（1995 年）→23.9%（2012 年）
- 乳幼児死亡率　50%低下
- 社会保障と公共事業に予算の 21%を投入
- 大学進学者数　800,000→2,600,000
- 75 の国立大学を新設
- 非識字率撲滅運動にまい進、などなど。

一方、自国の利益損失を恐れる西側帝国主義諸国はクーデターや政権打倒工作を企てては失敗してきた。そして今、「緩やかなショック」と呼ばれる新たな段階に入った。それは経済戦争であり情報操作である。

つくられる「物不足」

左はオルガルキー（寡頭支配層）などの企業家グループ。物資を買い占め、物不足の状態をつくり国民の不安を煽っている。
右は輸入産業に関わるグループ。物を輸入するかわりにドルに投機しベネスエラ経済を麻痺させている。すべて政権を転覆させオルガルキーの手に政権を取り戻すのが狙い。

ベネズエラはこの新たなショックに立ち向かっていく！

もっと詳しく知りたい方はドキュメンタリー**「隠された動機」がお勧め**
※ 同サイトで見られます。